

韓国語のオノマトペに

魅了されて

大竹 聖美

韓国語はオノマトペが面白い。私が翻訳した絵本に、韓国の子守唄の絵本があるが、これなどはオノマトペのオンパレードで、翻訳がとて難しかった作品だ。実際、最初のページの子守唄は、題名が「ピョル ハナ コンコンピョル トウル セクセク」というもので、全然訳していない(笑)。タイトルどころか本文のほうも、「ピョル ハナ コンコンピョル ハナ セクセク、ピョル トウル コンコンピョル トウル セクセク、ピョル セツ コンコンピョル セツ セクセク、ピョル ネット コンコンピョル ネット セクセク……」と、最後までとうとう一言も訳せずに韓国語の音をそのままカタカナにしているだけである。これで翻訳と言えるのだろうか!? オノマトペが難しくて翻訳できなかったのだろうか? と思われるかもしれない。

しかし、添字や注を見てもらえばすぐに意味はとれるようになっていて、訳してみるとなんのことはない。「お星

さま ひとつ とんとん お星さま ふたつ すやすや、お星さま ふたつ とんとん お星さま ふたつ すやすや……という星数え歌になっているのだ。なんだ、簡単じゃない、だったら最初から分かりやすく日本語に訳しておけばよかつたんじゃないの。どうして訳さずに音をそのままカタカナなんかにして、意味不明なものにしたの?

当時、この絵本を翻訳した時の私は、お星さまのことを「ピョル」という韓国語の響きがとても好きで、可愛らしくて、神秘的で、この絵本の雰囲気合っているからなるとかそのニュアンスを伝えたい、という気持ちでいっぱいだった。「星」と訳してしまえばそれまでで、そうではなく、星のことを「ピョル」っていうんだ、その「ピョル」がキラキラ光っているのを目を細めて喜ぶ隣人の詩や心と同じ星の下にいる私たちも一緒に愉しみたい分かち合いたい、そういう気持ちで一人盛り上がっていた。(つまり、独りよがりな情熱に燃えていたのです(笑))。カタカナでピョルと韓国語の発音をなぞっただけでは、当然、韓国語のもつ意味やニュアンスを伝えられるものではないのだ、ということは今では分かっています……。そもそも正確な発音や抑揚だって表現できていないのですし。

それから、赤ちゃんの背中をとんとんと叩いて寝かしつける仕草を「コンコン」と表現しているこの響きにもなんともいえない優しさや愛情を感じて、そのこまやかな情の